

水田珠枝

女性解放の思想をたどる

女性が自由に、対等に生きるためには、
何が必要なのでしょうか。

水田珠枝は、女性解放思想史の研究者です。『女性解放思想史』などを著し、女性の自由と平等をめぐる思想を歴史的に探究しました。また、主婦論争や天皇制をめぐる議論にも参加し、家事労働の価値や社会制度における性差別を問い続けました。



1 女性解放の思想をたどる

『女性解放思想史』を通して、女性の従属がどのように捉えられ、その克服がどのように構想されてきたのかをたどります。

- 『女性解放思想史』 水田珠枝 著, 筑摩書房, 1979.
- 『ミル「女性の解放」を読む』 水田珠枝 著, 岩波書店, 1984.
- 『現代社会とジェンダー：女性が解放する社会』 水田珠枝 著, ユニテ, 1995.

2 主婦という生き方を問う

「主婦労働の値段」では、賃金の支払われない家事労働に目を向け、女性の経済的自立を支える仕組みとして「主婦年金制」を提案しました。暮らしを支える労働の価値を問い直した論考です。

- 水田珠枝「主婦労働の値段」『朝日ジャーナル』1960年9月25日号。
- 「主婦論争を読むII 全記録」上野千鶴子編, 勁草書房, 1992, P22-43に再録。

3 女性と天皇制を考える

「性差別を国の象徴にすることはできない」では、皇室制度における性差別を、社会に残る家族制度の問題と結びつけて批判しました。女性の平等という視点から、家族と国家のあり方を問い直します。

- 水田珠枝「性差別を国の象徴にすることはできない」『季刊教育法』61号（1986年4月）。

思想の歴史から日々の暮らし、
そして社会制度へ。

水田珠枝の問いは、今日の私たちにも、自由と平等を実現するために何を变えるべきかを考える手がかりを与えてくれます。